

10年ぶりの米国から考える日本の未来

カリフォルニア大学ロサンゼルス校
ラスキン公共政策大学院

林田 直樹 HAYASHIDA Naoki

平成 28年 4月 総務省自治財政局公営企業課
8月 石川県総務部市町支援課
平成 29年 4月 同 総務部財政課
平成 30年 4月 内閣府地方分権改革推進室
令和 元年 7月 総務省自治財政局交付税課
令和 3年 4月 同 自治財政局財務調査課
7月 現職

日本の多様性あふれる暮らしと文化を守る

鹿児島で生まれ育った私は、幼い頃から海外に憧れ、10年前に米国西海岸を2か月間旅しました。この旅は、未知の経験ばかりで、これまで「当たり前」で気付かなかった日本の多様性あふれる暮らしと文化に関心を持つきっかけとなりました。人口減少・少子高齢化が進行し、地域の衰退が懸念される中、そうした日本を守っていきたいという想いを胸に、総務省を志しました。

柔軟な思考と多角的な視野を求めて

総務省は、各々の職員が国だけではなく地方・海外でも幅広い経験を積み、そうした異なる経験を踏まえて地に足のついた議論を交わすからこそ、バランス感覚に優れた最適解を導き出すことが出来る場所であると考えています。

私自身、最初の赴任地である石川県庁での勤務経験が、今でも大切な判断の拠り所の一つとなっています。内閣府地方分権改革推進室において、地域の実情に応じた国の制度改正を行ったときも、総務省自治財政局交付税課において、地方交付税制度

の改正を行ったときも、地方でお世話になった方々を思い浮かべ、時には直接ご意見を伺いながら、業務にあたりました。

社会はいま、コロナ禍という大きな転機を迎え、これまで以上に「当たり前」に捉われることなく物事を見つめ、考えることが強く求められています。そのような中、私は再び日本を離れ、柔軟な思考・多角的な視野を得たいという想いから、海外留学を志望しました。

米国での学びを日本に還元する

UCLAラスキン公共政策大学院では、米国人口第2位の都市であるロサンゼルスという立地を活かした授業を中心に履修しています。

先学期は、行政のデジタル化に関する授業を履修し、元州知事等から米国の成功事例を学びました。また、今学期は、ロサンゼルス等の大都市と小都市との経済格差や、コロナ禍が都市に与えた影響を分析する授業を履修しており、これまで培った視野とネットワークを総動員して勉強に励んでいます。今後、1年かけて現地の自治体等に対して政策提言する卒業プロジェクトが控えており、とても楽しみです。こうした学びを日本に還元する日が待ち遠しくてたまりません。

地方から海外まで、幅広いフィールドで活躍したい方、是非お待ちしております。



UCLAのRoyce Hallにて



休日家族旅行

The World Best Academic Environment

私は現在、英国オックスフォード大学ブラバトニック公共政策大学院に在籍しています。ここでは、'Statecraft and Cyberspace'をテーマに国家安全保障と情報通信技術に関する国家戦略の研究に従事しつつ、国際色豊かなCase Studyを通じて、政治哲学や公共経済学をはじめとする政府のリーダーに必要な素養を身につけるためのトレーニングを行っています。研究にあたっては、一昨年まで英国国家サイバーセキュリティセンターの長官の任にあったProfessor Ciaran Martinの指導を通じて、5G技術を巡る米中対立下での英国の政治判断や、安全保障、インテリジェンス上の懸念等、実際の政策決定者の視点から多くの示唆を得ることができ、ここでしか得られない、かつ今後の日本の意思決定に活用できる知見を身につけることができています。

What is the Best Policy?

実際に政策を検討し実行に移す際、重要な考え方があります。それは、「100%正しい政策など存在せず、実行可能な範囲で意思決定を行う必要があ

る」ということです。時の政策は、政治的な力学、緊急時の時間的制約、歴史的に積み上げられた法体系、入手可能な関連データに大きく左右されます。実際、オックスフォード大学のカリキュラムにおいても、「現実の政策に反映できる」政策分析手法を学ぶEvidence and Public Policyという授業があり、その主眼は、多くの制約の中で政策の効果を検証し、タイムリーで精度の高い政策を実現するにはどうすれば良いか、という点に当てられています。実現力のあるリーダーというのは論理的に正しいことのみを主張するのではなく、幾つかの妥協を経たとしても、実現可能な最大限のBenefitsをタイムリーに齎すことができる人なのだと考えています。

Better Led, Better Governed

'Japan is a peaceful and prosperous country. What more could you want?' ある友人から投げかけられた言葉です。他国から見れば依然として日本は豊かで平和な国であり、我々日本人が感じている閉塞感というのは他国には理解し難いものかもしれません。しかし、Public Sectorでの活躍を望む皆さんには、実現したい、打破したい「何か」があるのではないのでしょうか。私が今後の日本に望んでいるものは「強かさ」です。言葉は悪いですが、Cyberspaceを巡る国際場裡で「出し抜い

て」いき、強固なセキュリティと自国経済の利益を確保すべきという認識です。Cyberspaceは経済、軍事、そして人々の日常生活の現場が密接に絡み合った世界です。この舞台で日本が何を得るかは、当分野での規制を通じたルールメイキングを行う我々の手腕にかかっていると考えています。皆さんの考える「何か」がCyberspace、ICTというフィールドにあるならば、総務省というリソースを最大限活用して実現していただきたいと思います。



St Antony's Collegeの友人と



Formal Dinnerにて

As a Professional in Decision-Making

オックスフォード大学
ブラバトニック公共政策大学院

居石 康太郎 ORIISHI Kotaro

平成 28年 4月 総務省採用
同 情報通信国際戦略局国際経済課
平成 29年 9月 同 国際戦略局国際経済課
平成 30年 7月 同 サイバーセキュリティ統括官付参事官主査
令和 元年 9月 併任 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室主査
令和 2年 1月 併任 総合通信基盤局電波部電波政策課主査
8月 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室主査
令和 3年 9月 現職